



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

△特集▽ 国体に出場しませんか

知っているようで知らない大会？

それが全スポ

京都障害者スポーツ振興会 事務局長

金子 知拓

みなさん、全国障害者スポーツ大会ってご存知ですか？おそらく知らない人が大勢おられると思いますので簡単に紹介したいと思います。

「開催趣旨」

この大会の前身は、全国身体障害者スポーツ大会という名称で身体障害者の人々を対象としたスポーツ大会なのです。開催趣旨は、身体障害者がスポーツを通じて、機能の回復と体力の維持増強を図り、自らの障害を克服して、明るく勇気と希望を持って、たくましく生きていく能力を育てるとともに、社会の身体障害者に対する理解と認識を深め、その自立と社会参加の促進に寄与することを目的に開催されました。（個人競技の出場は、一生に一回でした。）

「開催のいきさつ」

昭和39年東京オリンピックの直後に、世界22カ国から身体障害者が集まり、「東京パラリンピック」第一部（国際大会）、第二部（国内大会、約480名参加）が開催され、これを契機に昭和40年岐阜国体の直後に第1回全国身体障害者スポーツ大会が開催され、現在に至っています。

なお、平成4年度から知的障害者を対象とした全国的障害者スポーツ大会が別に開催され、平成13年度（2001年）からは、全国身体障害者スポーツ大会と全国的障害者スポーツ大会が統合され第1回全国障害者スポーツ大会と改称されました。平成20年度（2008年）第8回大会から参加対象を内部障害（すべての内部障害ではない）と精神障害（団体競技のみ）の方へも広げられました。

「全スポ大会に出場するには？」

全国障害者スポーツ大会には、都道府県・政令指定都市単位での参加となります。ですので、個人で出たいといつても申し込むことは出来ません。では、どうすれば出場できるかと言いますと、あくまで京都の場合ですが、次年度の全スポ大会出場選手選考を兼ねた各種大会に申し込んでください。その際に、次年度の全スポ大会に出場したいと意思表示（申し込み用紙のどこかに記入箇所があります）をしてください。次に、実際に大会に出場して記録を残してください。これで次年度の全スポ大会への派遣選手対象となります。その後、京都府・京都市代表の選手を決める選考会議を経て選手が決定いたします。ちなみに平成元年度までは、各種の大会が選考会を兼ねるのではなく、その年の全スポ大会選手選考会を京都府・京都市別々に開催してました。

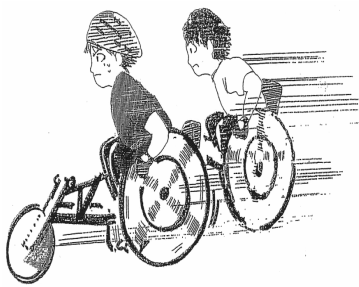
「何回出場できるのか？」

大会の規定では、現在出場回数の制限はありません。しかし、京都におきましては、この大会をきっかけにスポーツの楽しさ素晴らしさ知り、生きる希望と励みになればと考えています。大会に参加されました選手の方と大会後にお話させていただき、まずと「参加して良かった」

「一度出場したらどうなるのか？」

先ほども述べたとおり、初めて参加される選手を選考しています。しかし、全京都府内各地で開催される大会などへは、積極的に参加されることをお待ちしております。自己記録、日本新記録などの更新を目指して、これから積極的にエントリーして欲しいと思います。

全スポ大会のこと、京都での選考会を兼ねる大会のことなどで知りたいことがありましたら、京都障害者スポーツ振興会へお気軽にお問合せください。



「こんな経験を一人でも多くの人にしてもらいたい。」という感想がほとんどです。本会といたしましては、一人でも多くの人たちにこの経験をしたいと切に願っています。ですので、京都府・京都市の選手選考に当たっては、希望される方々の中で全国障害者スポーツ大会に出場したことがない人に出場してもらっています。

行事予定	12月	12(土)	京都府障害者スポーツ指導者研修会③	京都市障害者スポーツセンター	来月の つどいは 1 / 10 第2日曜日
		13(日)	443回障害者スポーツのつどい	京都府立体育館	
		19(土)	京都府障害者スポーツ指導者研修会④	京都市障害者スポーツセンター	
		20(日)	217回障害者水泳のつどい 城陽障害者スポーツのつどい	伏見港公園プール サン・アビリティーズ城陽	
	1月	9(土)	京都府障害者スポーツ指導者研修会⑤	京都市障害者スポーツセンター	
		10(日)	京都府障害者スポーツ指導者研修会⑥	京都府立体育館	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2009年11月23日に一部更新)				TEL/FAX075-712-7010	

スポ振ルネサンス 21

「心でつなぐ活動を！」
京都障害者スポーツ振興会
副会長 水谷 裕

今月で京都障害者スポーツ振興会(旧名 全京都心身障害者スポーツ振興連絡協議会)が全国で4番目に誕生して39年目に入りました。

この間、何も無いところからスタートし、「障害のある人々のスポーツ活動の裾野を拡げ、スポーツを通して次に繋げるため支援すること」を目的に、しやにむに活動をして来ました。その結果、様々な点で格段の発展をすることができました。

何よりも、大きな違いは、多くの人々の尽力によって、障害のある人々のスポーツ活動が府内に拡がり、大なり小なりの差はあるにしても、府内の各地域に「場」が確保され、障害のある人々を取り巻くスポーツ環境が、大きく様変わりをして来たことでした。

大きく変容して来た障害のある人々を取り巻くスポーツ環境は、障害のあ

る人々がスポーツを日常生活の一端に取り込めるような環境になって来たこともあり、振興会単独の活動だけでなく、他の団体とともに催すスポーツ事業にも広がり、京都府立体育館や、府立丹波自然運動公園体育館との振興会活動の原点である「障害者スポーツのつどい」などを筆頭に、様々な団体との共催事業なども格段に増えて来ました。

しかし、それだけに、今では指定管理制度の導入など社会情勢の変化により他の共催団体とのお付き合いの仕方にも、再構築することが必要となつてきています。単に振興会の三九年わたる実績と、永年継続してきた事業だからという手前味噌な思い込みの上に安易に胡坐を組んでいては、簡単にボタンの掛け違いが起こるといつても過言ではないのです。時代の流れを察知し、敏感に対応していくことが大切だし必要だと思います。

とりわけ、障害のある人々のスポーツ活動に連なる団体や施設との関係は、歴代会長が、ことあ

る度に言われてきたように、「組織は違っても、協力・共存の関係」にあります。この関係は、上手いかなければ、一番迷惑を直接こうむるのは障害のある人々なのです。

単に事業を一緒に行えば共催できるという時代ではないというものの、永年培い育んできた運営方法や障害のある人々へのスポーツ支援、また関わり方など、様々な面において作り上げてきたものと、事業としての本質とその必要性を真に理解してもらえようにも気を配ることによって、良い関係ができるものと考えます。

日常的な活動を通して人と人としてのお付き合いの中からお互いを理解し、受け入れることによつて、初めて成熟した信頼関係が生まれ、本当の意味での「協力・共存の関係」が構築されるものなのです。

以前にも書いたように、初代会長の芝田顧問は、「障害のある人のスポーツは、ヒューマニズムが基本」といわれて、在任中どのような場面においても相手の人を大切にした振

興会運営を行われていましたし、前会長の内山顧問は、他の団体との関係に気を配つておられました。

振興会は、当初からの理念のもと、「障害のある人々のスポーツ活動支援」を錦の御旗として実践してきていますが、常に自分たちの活動を検証する姿勢を忘れないことと、相手のおかれていた立場など現状を理解し、それを受け入れる余裕と謙虚さを失わずに取り組むことが、真の信頼関係が築けるものと信じます。

いうまでもなく、時代の流れによつて話し合う相手が変わり、従来の方針がブレたかのように思え、疑心暗鬼が生じたとしても、信頼を崩すかのような態度や言動はお互いに慎むべきことで、共催事業の歴史、必要性と意義などを理解し、現状認識を促すための対話を進める中で、お互いの思いをぶつけ合い、主張し合うことが大切です。その場合、「こうだから、こうなのだ」というような一方的に決め付けた如くの主張をすると、話し合いが途切れて不信感だけが残ってしまふことは言うまでもありません。

第32回京都府民総合体育大会

種目別交流大会

卓球バレー競技結果

日時 平成21年10月18日(日)
会場 京都障害者教養・文化体育会館
参加 26チーム(235名)

予選リーグ

- 第1ブロック 西京区身体障害者
- 第2ブロック 宮津
- 第3ブロック 南丹市A
- 第4ブロック 京田辺
- 第5ブロック やまぶき
- 第6ブロック ビックパン
- 第7ブロック 亀岡市B
- 第8ブロック 大山崎

決勝トーナメント

- 第1位 京田辺(京田辺)
- 第2位 ビックパン(舞鶴市)
- 第3位 やまぶき(宇治市)

